



月刊みんぱく

5月号

2024

特集 母の日

巻頭エッセイ 高野秀行



災い転じて主夫となる

たかの
ひでゆき
高野 秀行

ノンフィクション作家

プロフィール
1966年、東京都生まれ。早稲田大学探検部在籍時に書いた『幻獣ムベンベを追え』（集英社）をきっかけに文筆活動を開始。『謎の独立国家ソマリランド』（本の雑誌社）で講談社ノンフィクション賞、梅棹忠夫・山と探検文学賞を受賞。おもな著書に『アヘン王国潜入記』（集英社）『語学の天才 まで1億光年』（集英社インターナショナル）『イラク水滸伝』（文藝春秋）など。

十 二年前、主夫になった。それまでは同業のノンフィクションライターである妻が家事を取り仕切っていたが、私があまりに家のことをやらない（やっても粗雑）なので、何度も彼女の逆鱗（げきりん）に触れ、しまいには離婚の危機を感じたある日、「俺が主夫になる！」と口走ってしまったのだ。それから大変だった。主婦（主夫）業の負担は半端ではない。特に料理。冷蔵庫の中身を思い出し、献立を考え、買物に行き、何品も作るがたいというまいかず、食べる頃には疲れ果てている。これがエンドレスに続くのだ。

ところがこの主夫転向でいいこともあった。まず「食」へ興味が沸いてきた。それまで世界各地でいろいろなものを食べてきたが、あくまでも出されたものをいただくだけだった。それが主夫になると、「これ、どうやって作るんだろう?」「味付けはどうしてるんだろう?」という疑問や好奇心を感じるようになった。

私は決して料理が好きなのではなく、「いかに家族から不満をもたれないようにするか」が目標という志の低い主夫である。だからいわゆる食文化研究者やグルメライターとも視点が異なる。例えば、イラクの家庭では毎食、焼きたてのナンを大量に出すが、とても食べきれない。余ったナンはどうするんだろう?とすごく気になる。ミャンマーの少数民族シャン人は

納豆好きだが、毎食納豆料理を作ってメニューが単調にならないのが他人事ながら心配になる。

すると、現地の主婦の人たちはちゃんと解決法をもっていることが後で判明する。イラクではナンを肉や野菜と一緒に煮込むティシユリーブという料理があった。それは一見すると凝った品に見えるが、主婦の知恵（というか、やむを得ない事情）に由来するリサイクルメニューなのである。

シャンの主婦は納豆を入手すると、鮮度のよいうちは生のまま野菜と和えて出すが、それ以外は炒めたり煮たり、野菜を食べるディップ（たれ）に使ったり、乾燥させた粉をうま味調味料として使ったりと、恐ろしくさまざまな工夫を凝らしていた。

なるほど、そうやるのか! と感心するばかりか、みなさん苦労されているのだと共感してしまう。やがて、旅先（取材先）でも男性より女性の方が話が弾むようになった。女性目線で現地を眺める習慣がついて、多少なりともジェンダーに意識が行くようになり、これまた視野が広がった。

でもなにより主夫になってよかったのは妻との諍（いさか）いが激減したことである。家庭生活に厳しさを感じている男性にはぜひとも「主夫」になることをお勧めしたい。

- 12 みんなく回覧板
- 14 推しコレ図鑑
チェスパ(コカ入れ袋)の限界
松本 雄一
- 16 ふらりミュージアム
ネクソン・コンピュータ博物館
松岡 とも子
- 17 世界の「乗っちゃえ!」
極北をかける「マシン」
大村 敬一
- 18 だって調査だもの
ボリアモリーの叡智
深海 菊絵
- 20 ばくっ!とフィルめし
間をつくりだすアイタルフード
神本 秀爾
- 21 今月号の地図・編集後記

- 1 巻頭エッセイ
災い転じて主夫となる
高野 秀行
特集 母の日
- 2 母の日を考える
中牧 弘允
- 4 ロシアの母は二度感謝される
井上 まどか
- 5 黄色い母の日
河西 瑛里子
- 6 水色に染まる町
中村 真里絵
- 7 「ユダヤの聖母」ラケルの命日
赤尾 光春
- 8 「孝の日」のゆくえ
金 セツピョル
- 9 中国ならではの母の日を
韓 敏
- 10 「母になる」という思想
千田 有紀

月刊
みんなく
2024年 5月号

表紙

ジャスミンの花の蕾を数珠つなぎにしてくれるタイの花輪、プアンマラーイ。「母の日」に母へ贈るだけではなく、結婚式や祈願等、さまざまな場面で使われる(タイ ナコンラーチャーシーマー、2024年、中村真里絵撮影)

*本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供によるものです。
*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

母の日



5月第2日曜日が来たら

カーネーションの花を贈って「お母さん ありがとう！」

でも なんでその日 そんなことをするのでしょうか？

そもそも母ってどこの誰？！

世界の「母の日」 それぞれの母がみえてくる



母の日を考える

はじまりは白いカーネーション

二〇世紀末、日本でも五月の第二日曜日にカーネーションを贈って「母の日」を祝うことが定着した。言うまでもなくアメリカにならった習慣である。そのルーツを遡れば、

一九〇七年にウエスト

ヴァージニア州グラフトンでアンナ・ジャーヴィスが母の二年目の命日に合わせて、プロテスタント教会の信者に白いカーネーションを配ったことに端を発している。母アン・ジャーヴィスは南北戦争の負傷兵に対し敵味方を問わず看護したことで知られていた。アメリカでは一九一四年に「母の日」(単数形の Mother's Day)は国の祝日に



母の日の国際団体を創設したアンナ・ジャーヴィスを紹介したウエストバージニア州の新聞記事。白いカーネーションがあしらわれている
出典：アメリカ議会図書館 (The Times Dispatch. May 12, 1912, page 10, image 14)

なかまきひろちか
中牧 弘允

民博名誉教授

制定された。しかし、国によって「母の日」の祝日はまちまちであり、その意味合いも微妙に異なっている。例えばイギリスでは四旬節の第四日曜日(イースターの三週間前)がマザリング・サンデーであり、かつて奉公に出ていた子どもたちが母のもとに戻る日

とされていた。韓国では一九五六年に五月八日を「母の日」に定めたが、一九七三年に「両親の日」と改称し、父母に対する「孝」をあらわす日となっている。タイでは王太后(一九七六年の制定時は王妃)の誕生日の八月一二日が「母の日」である。

さまざまな母の日

ちなみに日本でも、一九三一年、皇后の誕生日である地久節(三月六日)を「母の日」としたことがある。また、五月五日の「こどもの日」が「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」日と法律で規定されていることは意外に知られていない。

社会主義圏では一九一〇年以降、「国際女性デー」が記念されるようになり、ロシアで



ピンク色のカーネーションがあしらわれた、母の日のフラワーギフト
(日本 東京、2023年)

は一九一七年三月八日(ユリウス暦では二月二三日)に起きた女性労働者を中心とするデモが帝政を崩壊に追い込みきっかけとなった。その後、旧ソ連などでは三月八日が「国際女性デー」となり、母を含む女性たちに感謝を捧げる日となった。

イスラーム圏でも親孝行(特に母)は重要な徳目とされている。エジプトでは一九五六年から当時のナセル大統領の承認を得て、三月二一日(春分の日)が「母の日」として祝われている。他方、インドネシアでは一二月二二日が「母の日」である。一九二八年の同日、第一回婦人会議がジョクジャカルタで開催されたことを記念して、一九五九年にスカルノ大統領が定めたという経緯がある。

ブラジル民衆本に詠まれる祝日

ブラジルの「母の日」(複数形の「母たちの日」)はアメリカ同様、五月の第二日曜日である。北東部に流布する民衆本には「母の日」をとりあげた作品もあり、詩人のひとりには脚韻を踏んで次のように母を讃えている。

一人の母は百人の子に値する／
その愛は神聖で純粋だ／数えき



ジョゼ・フランシスコ・デ・ソウザ著『母の日』
(ブラジル、H0158573)

れないほどの愛がある／現在においても将来においても／偽りは存在しない／愛情を守る金庫／母の愛は安全だ
(ジョゼ・フランシスコ・デ・ソウザ『母の日』第三節)
第五節以降では、アメリカにはじまった「母の日」の誕生物語を語り、ブラジルでは南部の都市ポルトアレグレで教会の青年たちが母への感謝を込めて祝ったのが最初であると指摘する。そしてリオデジャネイロの女性活動家が当時のヴァルガス大統領にかけ合い、彼は一九三二年に祝日法案に署名し、枢機卿もこの日をカトリックの祝日に加えることを良しとされ、祝福を与えたと詠いあげている。

ロシアの母は二度感謝される

井上まどか 清泉女子大学 准教授

11月
最終日曜日

ロシア



「ママ、大好き！」キャンペーンの絵はがき
出典: Wikimedia Commons/ Благотворительный фонд "Связь поколений"/ CC BY-SA 3.0

ロシアでは二月の最終日曜日が「母の日」である。じつはこの母の日、歴史が結構浅く、ソ連解体後の一九九八年に大統領令によって制定された。対抗意識もあってか、アメリカ起源の「母の日」は受容されなかった。今では保育園・幼稚園や学校で子どもたちがお母さんに贈る絵を描いたり、詩の朗読や歌の練習をしたりして、当日にはコンサートやイベントが開催されるようになっている。イベント開催や母の日カードの配布は「ママ、大好き！」キャンペーンとして知られ、それを後押ししているのが慈善団体「世代をつなぐ」、ロシア郵便、国民健康連盟や軍人父母協議会である。このキャンペーンでは勿忘草を母の日のシンボルとしている。遡るとソ連時代に「母の日」のような記念日がなかったわけではない。ソ連では三月八日の国際女性デーに、職場や家庭で女性に感謝の意をあらわして花やカードを贈るというのが一般的だった。つまり、母性では



マトリョーシカ。伝統衣装としてルバシカ(刺繍入りのシャツ)とサラファン(ジャンパースカート)を着たロシア女性が描かれている。出典: Dario Lo Presti/ Shutterstock.com

母への贈り物がなされるので、母である女性には少なくとも年に二度感謝されるというわけである。ロシアのフォークロア研究によれば、ロシアを含む東スラヴの農民たちは歌や祈りのなかで「母なる湿れる大地」というフレーズを唱えてきた。「湿れる」というのは肥沃で豊穡であることをあらわしている。例えば、ロシアの河川のうちヴォルガ川は親しみを込めて「母なるヴォルガ」とよばれる。民芸品のマトリョーシカは今やさまざまなデザインがあるが、元々は、その着衣から若い母親を描いたものと考えられている。ロシアの少子化対策や家族政策が背後にちらつく今日の「母の日」であるが、それを支えるのが母性を重んじるロシアの民俗的想像力なのであろう。

黄色い母の日

河西瑛里子

民博助教

3月
イースターの
3週間前
Mothering Sunday
イギリス



地元スーパーのラッパ水仙"Daffodils"の略称"Daffs"と書いてあるのも、なんとなしに可らしい

三月に入ってしばらくしたころ、黄色いラッパ水仙を店頭で売る店が目立つようになった。ほどなくして、この花がもうすぐ来る母の日の花とされていると知る。イギリスで長期調査を始めて、一カ月ほどが経った二〇〇九年のことだ。

赤いカーネーションじゃないの？

イギリスのラッパ水仙は、日本のより一回り大きく、その黄色は何倍も何倍も色鮮



上: 町の教会の庭に咲くラッパ水仙
中: 聖杯庭園に花咲く、黄色いラッパ水仙。この時期、そこら中で見かける
下: 町の教会のマザリング・サンデーのお知らせ(写真はすべてグラストンベリー、2009年)

やかだ。けれど、唇を突き出すかのように、中央部が突起している。失礼ながら、そのユーモラスな姿形にくすりと笑ってしまい、「ママ、いつもありがとう」とまじめな気分にはならない。せっかくだから贈ろう、と思ったものの、検疫があるから日本の母には送れない。そこで当時お世話になっていた大家さんと、

かつての居候先の年上の友人に「イギリスのお母さん、ありがとう！」と贈って見たところ、思った以上に喜んでくださった。イギリスで生まれ育った女性たちにとっては、三月に咲き誇る、だからこそお小遣いの範囲でプレゼントしやすい、この黄色いユーモラスな花が母の日の象徴のようだ。

この年の母の日は第四日曜日だった。

一年後。今年も贈ろう、と三月を迎えたら、早々に店頭に並び始めた。じつはイギリスの母の日はマザリング・サンデーとよばれ、イースターの三週間前という移動祝日。検索したところ、この年は第二日曜日のよう。念のため、先の友人に確認する。「さあ、いづかな、気にしたことないな」。でも一応、当日の夜に彼女の元を訪れた。もちろん、鮮やかな黄色いラッパ水仙を手土産に。

水色に染まる町

中村真里絵

愛知淑徳大学助教

8月
12日
王太后の誕生日
タイ

2015年に開催された“Bike for Mom”はバンコクだけでなく地方でも一斉に開催された
出典:Mr. Witoon Boonchoo/ Shutterstock.com

タイの母の日は、シリキット王太后の誕生日の八月二日である。一九七六年、タイ政府はこの日を国民の祝日とし「母の日」と定めた。七月に入ると町中には王太后の肖像画と紋章入りの水色の旗がそこかしこに掲げられる。国王を象徴する黄色の旗をふだん見慣れている目には涼やかに映る。町だけではない。企業のサイトや個人のFacebookのトップページまでもが水色を背景に王太后の肖像画になる。店には水色のシャツが売られ、これを着用する人もめずらしくない。この水

色は、王太后が誕生した一九三二年八月二日が金曜日であったことにちなんでいる。タイでは生まれた曜日ごとにシンボルカラーが決まっている。金曜日は水色、プミポン前国王が生まれた月曜日は黄色となっている。母の日には、役場では王太后の誕生を祝う肖像画の前でセレモニーがおこなわれるなど、各地でイベントが開催される。ワチラコン現国王が皇太子時代に発案した“Bike for Mom”は、数万人の参加者が水色のTシャツを着て街中を自転車で走る大イベントで話題を集めた。

このように「国民の母」としての王太后への敬愛をあらわす日であると同時に、国民それぞれが母に対する感謝をあらわす日でもある。だからレストランでは母と一緒に割引になるサービス、デパートでは母の日セールがあり、家族連れでにぎわう。家庭では、子どもが母親へ日ごろの感謝を込めて、香り高い白いジャスミンの花輪を母へプレゼントする。このとき、子どもは床にひざまづき手を合わせてお辞儀をし、母の足元に触れる。これは「ワイ」とよばれるしぐさのなかでもっとも深い尊敬の念を示す形式である。かつて、わたしがホームステイをしていた先の中高生の子どもたちが、母親にジャスミンの花輪を手渡し、このワイをしているのを一度だけ目にした。思春期の子どもが照れた様子もなく母親への愛情をストレートに示す姿は新鮮であった。



筆者が友人の母にワイをしているところ
(タイ ナコンラーチャシーマー、2024年、Rawikan Thantham撮影)



ジャスミンの花輪



「ユダヤの聖母」ラケルの命日

赤尾光春

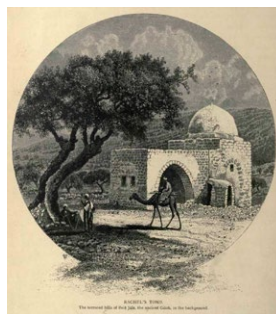
民博 特任助教

第8の月
ヘシュバン
11日
ラケルの命日
イスラエル

母の日は欧米の世俗化したユダヤ人家庭でも熱心に祝われてきたが、ユダヤ教には「ユダヤ版母の日」ともいべき伝統がある。ユダヤ暦第八の月ヘシュバンの一日(グレゴリウス暦では一〇月か十一月)に当たるラケルの命日がそれである。

ラケルは「旧約聖書」に登場するイスラエルの民の祖ヤコブ(別名イスラエル)の妻である。彼女はユダヤ人にとって受難の女性像の源となってきた。ラケルはヤコブに見初

められて結婚したものの、同じくヤコブの妻となった姉レアとの確執が絶えなかった。さらに、ヨセフが産まれるまで不妊に悩み、そのうえ旅の途上で第二子ベニヤミンを産んだ直後に死んでしまう。この悲劇性ゆえに、ベニヤミンの末裔、預言者エレミヤは、バビロンで囚われの身となったイスラエルの子らを嘆き、そして救済の時まではいかなる慰みも拒む、毅然とした母親像をラケルに投影した。



エルサレムからベツレヘムへの途上にあるラケルの墓廟のスケッチ
(1880年制作)



ラケルの墓廟で祈るユダヤ人女性たち
(ベツレヘム近郊、2014年、Michael Jacobson撮影)
出典:Wikimedia Commons/ ©Michael Jacobson

今日、多くのユダヤ人女性が、ラケルの命日にエルサレムからベツレヘムへの途上にある墓廟を参拝する。この伝統自体は中世に遡るものだが、興味深いことに、ラケルは現在、不妊や難産からの守護聖人のみならず、「民族の聖母」ともみなされている。その背景として、一九世紀のヨーロッパで再燃した聖母マリア崇敬の影響も指摘されるが、最大の契機は、シオン(エルサレム)への「帰還」

とパレスチナにおける「ユダヤ人国家」の建設を目指したシオニズム運動である。つまり、シオニストによるパレスチナ入植活動の進展とともに、ラケルはユダヤ人の救済の鍵を握る「民族の聖母」として再解釈されたのである。

ユダヤ教の聖者のなかでラケルが異彩を放っているのは、おもに女性たちによつて崇敬されている点である。さらに、女性特有の悩み苦しみと結び付くだけでなく、民族救済への希求をおした国民統合のシンボルとして機能している点でも際立っている。このように、ユダヤ版母の日は、巡礼の実践をおして、個人と民族のみならず、時間と空間をも結び付けるユニークなユダヤ教の年中行事のひとつである。



1879年に23才の若さで夭折したポーランド系ユダヤ人画家マウリツィ・ゴットリーブ作
《ラケル(Rachela)》19世紀後半



三字経のトランプのなかで、孟母の教えが記されている
(中国の文化展示場、H0254303)

アメリカ発祥の「母の日」が中国大陸に伝えられたのは、中華民国期の一九二〇年である。日本やアメリカと同じ五月の第二日曜日。母親への敬意と感謝を表現するために、当時の新聞はグリーンディングカードや花などの贈呈をよびかけた。キリスト教会や婦人会、一部の社会団体も講演会やイベントを企画した。その影響は

中国ならではの母の日を

韓敏
民博教授

5月
第2日曜日
母の日
中国

母親への感謝やお祝いにとどまらず、家庭や社会における女性の権利に対する関心にも及んだが、その後の政治的混乱と頻繁な戦争により、徐々におこなわれなくなった。改革開放後、市場経済と外国との交流が盛んになるにつれて、特に一九九〇年代末から母の日が復活するようになった。

この日は母を食事に連れていったり、離れて暮らす母に電話や贈り物をしたりして母親孝行する。贈り物は赤いカーネーションが一番人気である。

この母の日は中国で祝日ではない。いっぽう、近年、一部の地域や学者、全国人民代表大会の代表が、歴史の長い中国において自分たちの文化と精神をあらわす中国ならではの母の日を設けることをよびかけている。

中国ならではの母の日の候補として挙げたのは、旧暦九月一日。中国の神話と道教に登場する女神の女媧が人間を

創った日である。

もうひとつの候補日は旧暦四月二日。性善説で有名な儒学思想家孟子が生まれた日である。だがここで重要なのは孟子ではなく、その母親。

孟子が立派な人物に育つのに最適な環境を求めてたびたび引っ越したという「孟母三遷」などの教えゆえに、現代中国でもすぐれた「教育ママ」の鏡とされているからである。その背景には、少子化と高学歴化による受験競争の激化がある。

新しい母の日が決まったら、はたしてその日は祝日になるのだろうか。

「母の日」のお母さん
(廈門市、2019年、周鵬撮影)



「孝の日」のゆくえ

金セツピヨル

総合地球環境学研究所 客員助教

5月
8日
両親の日
韓国

「先祖と親に対する恩恵を察し、目上の人や老人のための行事をする」。これは、韓国の行政安全部(内務省)による「両親の日」の紹介である。韓国ではアメリカの影響を受け、一九五六年に五月八日を「母の日」に制定、後に「両親の日」と改め、祝ってきた。しかし発祥国とは違い、儒教の影響で広く「孝」を实践する日として定着している。この日

は自分の親に対する感謝だけでなく、政府や自治体、民間団体のレベルでも「孝」の思想を啓蒙し、実践を促すキャンペーンがおこなわれる。例えば、二〇二三年ソウル市では、認知症になった養父母と三〇年以上同居し、献身的に奉養したという六十代の女性をはじめ、三四人が表彰された。このような行事は、孝を忠実に実践した者を表彰し、

両親へのメッセージカードを引き出すと、20万ウォン(約2万2000円)の小切手が連なっている(韓国 ソウル市、2023年)

記念碑などを建てていた朝鮮時代(二三九二年〜一九七七年)を思い出させる。

若い世代のあいだでも、両親の日には孝行をするものと考えられ、両親にプレゼントが渡される。カーネーションが代表

最近では実用性が重視され、「お小遣いボックス」という、お花に現金の束を添えたものが流行っているという。

一方、核家族化や未婚化、少子化を感じさせる変化も見られる。公園などで炊き出しをおこなっている市民団体によると、「両親の日」は通常の三倍ほどの高齢者が集まり、「独立した子どもは他人のように感じる」「子どもがいけないので、ここで親の日を過ごせてよかった」などの声が上がったという。「孝の日」としての性格が強かった韓国の「両親の日」は、今後どのように変わっていくのだろうか。



お小遣いボックス。お花の下引き出しに現金を入れて両親にプレゼントする(韓国 ソウル市、2023年)



雑誌『青鞥』創刊号表紙(青鞥社、1911[明治44]年)



平塚らいてう
出典:Wikimedia Commons/ 朝日新聞社



櫻井ちか子著『三百六十五日毎日のお惣菜』
(政教社、1917[大正6]年)の挿絵

らいてうの母性

必ずしも母にならなくてもいいというところが驚きだったわたしのような世代もいるが、近代初期の女性たちはどうだったのだろうか。じつは雑誌『青鞥』をつくったフェミニストである平塚らいてうにとって、「母であること」はとても新鮮な経験であり、女性の権利の源であった。夫と子どもを捨てて自立を選ぶイブセンの戯曲「人形の家」の主人公のノラに対して、らいてうの論評はとても冷淡だったことに驚いたことがある。ノラの個としての内面性のなさを嘆く文章であったが、むしろ「一四、五の小娘なら知らず、三人の母親として」など、母としての自覚的な

さが非難されているのではという気すらした。らいてうはのちに「子供に対する欲望や、母たらんとする欲望が実は自分の愛の中にも潜んでいる」ことに驚いてみせるが、その出発点からじつは母であることをよすがにしていたのではないか。

母性保護論争においても、女性は男に頼るべきではないのと同様に国家にも頼るべきではないという与謝野晶子^{よさのあきこ}に対してらいてうは、「母は生命の源泉であって、婦人は母たることによって個人的存在の域を脱して、社会的な国家的な人類的な存在者となる」とまでいつている。らいてうは母であることは、自分を成長させていくための手がかりであると同時に、女性が国家にさまざまな

な要求をするための根拠でもあった。母であることに頼らずとも権利が認められるようになってきた現代の女性たちにとって、母であることは、母にならないことを含み、どのような意味をもつのだろうか。母の日をきっかけに考えてみるのもよいかもしれない。



能代実科高等女学校裁縫室(開校記念絵葉書、1916[大正5]年)
出典:Wikimedia Commons

「母になる」という思想

女はクリスマスケーキ!?

これまで女性たちにとって「結婚して母となる」という生き方は標準的であり、結果として多くの共通経験をもたらしてきた。「女はクリスマスケーキ」なんてたとえがある。二四歳までは飛ぶように売れるが、超えると売れなくなる。三十一にもなれば「年越しそば」。こんな失礼な言い方から、結婚しない限り、どんな女性であつても逃れることができなかつた。こうした年齢は、若さゆえの女性の美しさの評価もあるが、「母になる」年齢から逆算されていたともいえるだろう。以前は三〇歳で高齢出産だといわれたが、今は四〇歳を超えての出産もめずらしいものではなくなつた。

まさに昭和が終わる年度に大学に入学したわたしにとって、こうした女性の生き方、

母の世代と同じような生き方は、たとえ職業をもつにしても、運命のように自分を拘束しているものと感じられていた。ところが女性が「母」になるように求められるようになったのは、近代に入ってからだということを知って、目から鱗^{うろこ}が落ちた。

江戸時代の女子教訓書『女大学』では、女性に求められるのはよい子どもを産むことだけで、育児をするなどの母の役割は求められていなかったというのである。それどころか、「良妻賢母」ということは、近代に入ってから作られた。日本古来からあるわけでも、中国から来た儒教思想でもない。中国や韓国に、むしろ日本から輸出されたものだといふのだ。つまり母であることを求められるのは、じつに近代的な事象であるというのである。

千田有紀^{せんだ ゆき}

武蔵大学教授

みんなく 回覧板

イベントの詳細・予約はこちら

みんなくホームページ
催し物のご案内
<https://www.minpaku.ac.jp/event/>



各イベントについて、
詳しくはホームページを
ご覧ください。

みんなく創設50周年記念特別展

日本の仮面

― 芸能と祭りの世界 ―

会期 6月11日(火)まで
会場 特別展示館



西金砂神社田楽舞
(茨城県 常陸太田市)

みんなく創設50周年記念企画展

「水俣病を伝える」

会期 6月18日(火)まで
会場 本館企画展示場



水俣市明神が鼻の魂石

Mark Winchester 助教 (学術資源研究開発センター)



一橋大学大学院で博士号を取得。一橋大学特任講師、日本学術振興会外国人特別研究員、神戸外国語大学専任講師、国立アイヌ民族博物館アシエイトフェローを経て現職。1970年代に活躍したアイヌの文学者や芸術家についての思想史研究に取り組んでいる。

みんなく創設50周年記念 国際シンポジウム

海域からみる 人類の文化遺産

日時 5月11日(土)、12日(日) 10時30分～16時30分(両日10時開場)
会場 みんなくインテリジェントホール (講堂(定員3500名))
趣旨説明 小野林太郎(本館教授)
国内外で活躍する計14名による発表(日英での同時通訳あり)
主催 国立民族学博物館
共催 N-HUGグローバル地域研究推進事業「海域アジア・オセアニア研究」

【申込期間】

5月2日(木) 17時まで
※事前申込制、先着順、参加無料
※オンライン(ライブ配信)でもご参加いただけます(定員5000名)。
詳細は二次元コード(QR)から
お問い合わせ先
シンポジウム事務局
(千里文化財団)
shohsympo@senri-f.or.jp



みんなくゼミナール

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)
※定員400名
※事前申込制、先着順、参加無料
※当日参加受付あり(定員80名)

第545回
5月18日(土)13時30分～15時(13時開場)

東南アジアの仮面

講師 福岡正太(本館 教授)

【申込期間】

▶一般受付 5月15日(水)まで
※友の会先行受付は終了しました。

第546回
6月15日(土)13時30分～15時(13時開場)

神楽とはなにか？

― 語意に着目した機能論的分析の試み

講師 鈴木昂太(本館 助教)

日本各地では「かぐら」と呼ばれる芸能が多様な形態で演じられています。本ゼミナールでは、なぜ「かぐら」という音に「神」と「楽」の字をあてたのかという問いから、芸能の特徴を分析していきます。

【申込期間】

▶友の会先行受付
5月13日(月)～17日(金)(定員80名)

お申し込み先

国立民族学博物館友の会(千里文化財団)

▶一般受付 5月20日(月)～6月12日(水)



和賀大乘神楽「荒神舞」(岩手県 北上市、2017年)

みんなくウィークエンド・サロン ― 研究者と話そう

会場 本館展示場(ナビひろば)
※定員なし(ご自由に参加いただけます)
※申込不要、要展示観覧券(一般580円、特別展をご覧になる場合は一般880円)
※イベント参加費は不要

5月5日(日・祝)14時30分～15時

八朔太鼓踊りとメンドン

話者 福岡正太(本館 教授)

5月12日(日)14時30分～15時

ネコ実験小屋の修復について

話者 日高真吾(本館 教授)

5月26日(日)14時30分～15時

中東イスラーム世界にも仮面芸能はあった、かもしれない…

話者 山中由里子(本館 教授)

本の紹介

岸上伸啓 編著
『北太平洋の先住民文化 ― 歴史・言語・社会』
臨川書店
4,620円(税込)



北太平洋地域の先住民文化に関する考古学、言語学、文化人類学の最新の成果がわかる。

友の会

講演会・セミナーへのお申し込みは友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

お問い合わせ先

国立民族学博物館友の会(公益財団法人千里文化財団)

電話 06-6877-8893 (9時～17時、土日祝を除く)

E-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

FAX 06-6878-3716

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



友の会講演会

参加形式 ①本館第5セミナー室(定員90名)
②オンライン

友の会会員：無料
一般(会場参加のみ)：500円
※事前申込制、先着順
※会員は会場参加の場合、事前申込不要

第548回 5月4日(土・祝)13時30分～15時
仮面とわたし

講師 吉田憲司(本館 館長)

大学へ入学した年から始めた仮面をめぐるフィールドワーク。今年2024年でちょうど50年越しの仮面との付き合いになります。日本国内から始まった仮面の探究は、アフリ

カへ、そして、アジア、アメリカ、ヨーロッパへと広がっていきました。その原点はどこにあったのか。そして、その到達点は？わたしの仮面研究の軌跡をたどります。
※講演会終了後、講師が担当した資料を中心に、本館展示の見学会をおこないます。(事前申込制、要会員証もしくは展示観覧券)

第549回 6月1日(土)13時30分～15時
企画展「水俣病を伝える」の舞台 ― フィールドワーク展示の試み

講師 平井京之介(本館 教授)

熊本県水俣・芦北地域では、展示やガイドツアー、写真、語り部講話などを通じて、水俣病の歴史や被害者の苦しみ、公害の経験をかいたまちづくりなどを伝える活動が

ざかんです。本講演では、まず水俣でのわたしのフィールドワークについてお話しし、その後展示場に移動して、企画展「水俣病を伝える」の見どころを紹介します。
※講演時間内で講義と企画展示場の見学をおこないます。(要会員証もしくは展示観覧券)
※オンライン配信は講義の時間のみとなります。

会員交流のための企画 中牧先生の理事長サロン

6月1日(土)15時30分～16時30分
会場：第5セミナー室(予定)事前申込不要
友の会へのご要望や研究へのご質問に千里文化財団の理事長・中牧弘允先生が答えます。

創設50周年記念みんなく映画会
みんなくワールドシネマ
「GAGA ― ハヨンの家族」
日時 5月25日(土)13時30分～16時10分(13時開場)



2023年開催の様子

主催 国立民族学博物館
主管 音楽の祭日 Lele de la Musique au Japon 日本事務局
※先着順、参加無料(展示をご覧になる方は、展示観覧券が必要です)
お問い合わせ先
ongaku@minpaku.ac.jp

イベント
音楽の祭日 2024
in みんなく
フランスで1982年にはじまった「音楽の祭典」にならい、プロ・アマを問わずにみんなで音楽を楽しむイベントです。日本では2002年に関西からスタートしました。「音楽は全ての人のもの」という精神にのっとり、1年のうちで昼が一番長い夏至の前後の日に開催します。
日時 6月23日(日)10時30分～16時10分(開場10時)
2部制(1部は10時30分開演、2部は14時開演)
会場 みんなくインテリジェントホール (講堂)(定員4000名)
主催 国立民族学博物館
お問い合わせ先
ongaku@minpaku.ac.jp

みんなくミュージアムパートナーズ (MMP) 新規会員募集
MMPは、みんなくに来館される皆さまにより楽しく、親しみをもっていただけるよう活動をおこなうボランティア団体です。一緒に活動する新しい仲間を募集します。
対象 満15歳以上で、みんなくでこなう説明会・研修に参加できる方
受付期間 5月1日(水)～8日(水)

みんなくをあそぼう！
日時 5月5日(日・祝)
10時～16時終了予定
会場 本館1階エントランスホール
※申込不要、参加無料、当日随時受付

点字体験ワークショップ
日時 5月11日(土)、6月8日(土)
12時～15時30分(最終受付15時)
会場 本館1階エントランスホール
※申込不要、参加無料、当日随時受付

研究部 新メンバー
高杉真紀助教
(人類基礎理論研究部)
たかしな まき
国文学研究資料館機関研究員、人間文化研究機構人間文化研究創発センター研究員(国立歴史民俗博物館特任助教を併任を経て現職、民間所在アーカイフスの保全と活用に関する研究に取り組んでいる。)

研究部 新メンバー
高杉真紀助教
(人類基礎理論研究部)
たかしな まき
国文学研究資料館機関研究員、人間文化研究機構人間文化研究創発センター研究員(国立歴史民俗博物館特任助教を併任を経て現職、民間所在アーカイフスの保全と活用に関する研究に取り組んでいる。)

説明会 5月26日(日)13時30分～16時
(参加必須)
応募方法
はがきに住所氏名、メールアドレス(パソコンで利用できるものを推奨)、電話番号を記入し、みんなくミュージアムパートナーズ事務局(〒565-1851吹田市千里万博公園10-1)宛へ郵送。
※応募結果はメールアドレスに連絡します。
※研修5回あり(6月～9月頃を予定)。詳細は二次元コード(QR)から



◆ 推しコレポイント ◆

カラフルなボーダー柄のなかに
さりげなく配された先スペイン
期に由来する紋様がオシャレ。

コカ入れ袋

標本番号 | H0004537

地域 | ボリビア共和国(推定)

展示場 | アメリカ展示場



チュスパ（コカ入れ袋）の限界

まつもと ゆういち
松本 雄一

民博 准教授

1000年以上の歴史

かわいい小物入れなどが大好きである。南米のお土産屋さんでカラフルなかけひも付きのポーチは、よく見かけるものなのだが、いつい手にとってしまう。

考古学調査でもポーチが出土した事例があるが、その形もデザインもお土産物屋さんで目にするものと多くが似通っている。

ケチュア語でチュスパとよばれるこのポーチは、コカの葉を入れるために用いられてきたことが知られており、チュスパのなかにコカの葉がそのまま残っていた出土例もある。少なくとも1000年以上前、スペイン人による征服のはるかむかしからそのように用いられていたのだ。

コカの葉は、噛むことで空腹や疲労を感じにくくする効果があり、アンデスの農民や牧畜民にとって欠かすことのできないものである。アンデス考古学を専門とする筆者の調査地は標高3600メートルの高地であり、コカは肉体労働である発掘作業に欠かせないものだった。午前と午後に1回ずつ、ちょうど日本のおやつのようにコカ休憩がある。木陰でコカを噛みながらよもやま話に興じるのである。

myチュスパの弱点

調査当初、みんなどんなかわいいチュスパをもっているのか、私は興味津々であった。そして土産物屋さんで買ったmyチュスパまで

隠しもって話の糸口にしようとしていた。ところが皆、無料でもらえるビニール袋に無造作にコカを入れているのである。聞けば、もはや織物のチュスパを使っている人など誰もいないという。

なんとなく悲しい気分になり、myチュスパはお披露目しなかった。それでもちょっとコカを入れたりして一人で悦に入っていたのだが、その欠点は数日で明らかとなった。

「あれ、ビニール袋に入れたコカの方がフレッシュでおいしい!？」

考えてみれば当たり前の話で、織物は通気性が良いためコカの葉が数日でパリパリに乾燥してしまう。噛もうとすると口のなかがチクチクと痛いし、水分ももっていられる。昔の人は大変だったろうな、と思いながらわたしもビニール袋からコカの葉をつまむようになった。

ちなみにこのチュスパ、日本ではなかなかないサイズ感で、ちょっと散歩に出るときなどに最高である。晴れた日に文庫本でも入れて公園に行きたくなるのだ。



コカの葉は山の神様への捧げものとしても欠かせない。儀式を取り仕切る呪術師は、コカの葉をやはりビニール袋から取り出した（ペルー アヤクチョ州、2013年）

あの日のハイテク、博物館の展示品に

ネクソン・コンピュータ博物館 (韓国)

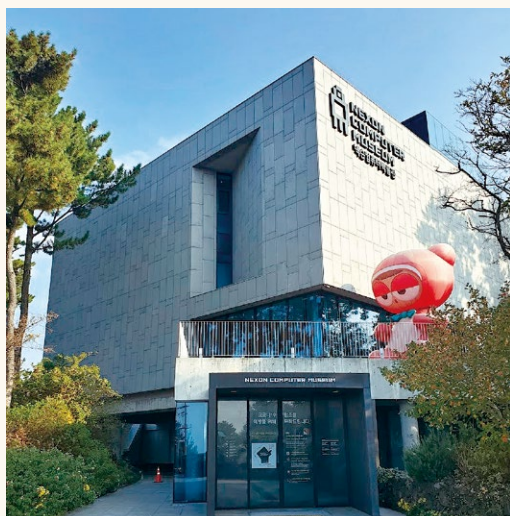
まつおか ミ
松岡 とも子 民博 外来研究員

小学生の我が子と歴史系博物館に行く、九〇年代後半の日本で流行した電子ゲーム「たまごっち」や、いわゆる「ガラケー」とよばれる旧来の携帯電話が展示されていた。いずれもわたしがともに青春時代を過ごした品だ。子どもは「スマートフォンのない時代はいろいろな道具を使ってたんだ」と驚き、わたしはついに自分も博物館でなじみの日用品を見る世代になったことを知った。

今回わたしが紹介するのは、調査の帰りに寄った韓国・済州市のネクソン・コンピュータ博物館だ。一九九〇年代の韓国で創業、多国籍オンラインゲーム会社のネクソンが二〇一三年に開館したものだ。コンピュータ機器の開発の歴史を実物の展示でたどりつつ、インベーダーゲームやファミリーコンピュータなどの懐かしいゲーム機器のほか最新アーケードゲームも実際に体験できる。

観光客で賑わう済州島のためか、さまざまな地域や世代の観覧客が楽しむ。大人には懐かしいハイテク、子どもには新鮮なローテクが次々紹介されており、歴代のWindowsの起動画面の展示には「なつかしい!」と叫んでしまった。

そして歴史であれ文化であれ、コンピュータがもはやわたし



上: 博物館外観
下: パネル展示
(韓国 済州市、2022年)

たちの生活を網羅的に物語ることのできる資料であることを知った。コンピュータのOSは翻訳こそされるが、日韓ほか欧米の言語の例を挙げるなら見た目には大きな仕様変更がない。はじめに挙げた博物館の展示品のようにローカライズされた電化製品に比べて、はるかに多くの人びとが世界中で同時期に共通のものを使用しており、その記憶や経験をわかち合える品ともいえるだろう。一方で同じものを共有しているからこそ、ものの自体からは見えない個々の背景、つまり地域や世代、個人がもつ多様な物語を内包するものであるかもしれない。この館を訪れたことで、コンピュータ機器は今後、博物館の展示品としてさまざまなかたちで重要視されていくのだろうと感じた。

極北をかける「マシン」

イヌイト語で「スキドゥー」とよばれるスノーモービル、「ホンダ」とよばれる四輪駆動バギー、「ウミアンガック」とよばれる船外機付きボートなど、しばしば「マシン」とも総称される乗り物。カナダ極北圏の先住狩猟採集民イヌイトのあいだでの暮らしを振り返ると、印象深く思い出されるのは、そうしたマシンの修理と整備である。猟に出かけないときはほぼ毎日、雪に覆われた定住村落の家屋の前で、あるいは屋内や倉庫で、車体やエンジンを分解し、その修理と整備にこそしむハンターたちを手伝う。夏に開ける海原を前に、どこまでも澄んだ青空のもと、REOスピードワゴン



スノーモービルを駆るイヌイトのハンター
(カナダ ヌナウト準州 クガールク村、1996年)

の Can't Fight This Feeling を大音量でかけながら、海岸に引き上げたボートをハンターたちと一緒に修理・改造する。そんなとき、道行く村のハンターたちが、「ウーナイ」（しばらくねえ、「ヒラツチャウロック」（いい天気だねえ）と次々に声をかけてくる。しばしの会話のあと、その間にさりげなく状況を把握したハンターたちを交えて修理と整備が再開される。いつの間にか五、六人に増えたハンターたちが、意見を交換しながら力を合わせ、ときに部品をもちより、一時間以上も協働作業が続くこともめずらしくない。その間、「冗談が飛び交い、かけ声と笑い声が弾み、遊んでいる子どもたちが寄ってきてのぞき込む。そうして作業が

おおむらけいいち
大村 敬一

放送大学 教授

一段落すると、「ウブツチャゴ」（またね）と、道行きのハンターたちはさりげなく去って行く。

マシンをめぐって、毎日、突発的に繰り返される会話と協働。そうして醸成される人びとのつながり。猟のために、隣村の親族を訪問するために、村内を移動するために不可欠なマシンには、こまめな修理と整備が欠かせない。そうしたさりげない日々の営みのなかで、人びとのあいだに橋を掛け、コミュニティの連帯を醸成しながら、マシンは今日も極北の「大地」（ヌナ）を駆け回っていることだろう。



自宅前から四輪駆動バギーでボートを運び、イッカクジラ
猟に出る(カナダ ヌナウト準州 クガールク村、2012年)

だって
調査だもの

ポリアモリーの叡智

ふかみ 菊絵
深海 日本学術振興会 特別研究員RPD

信号のない交差点で

カラッとした空気。晴れたる青空。わたしが交通事故にあった日は、ロサンゼルスらしいビーチ日和だった。信号のない交差点で衝突。その瞬間、映画で観るようなスローモーションを初めて経験した。



わたしはロサンゼルスでポリアモリーの調査をおこなっていた。ポリアモリーとは、合意に基づいて複数の人と親密な関係を築く愛のかたちや生き方のことである。その日は二人のパートナーがいるという女性に話を聴くために、待ち合わせのカフェに向かっていた。車は大きく凹んで廃車になったが、わたしも相手方も無事だった。

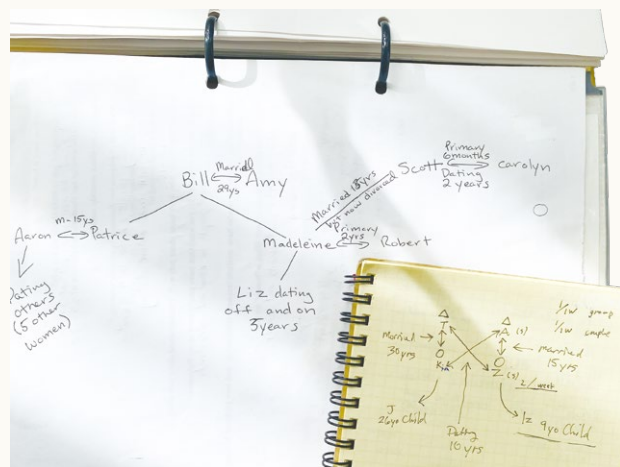
自分に手紙を書く

ロサンゼルスで調査をするには車が不可欠である。帰国するまでの二カ月をレンタカーで乗り切ることにした。しかし、問題が生じた。エンジンをかけると事故のことを思い出し、一気に不安に襲われ、運転を諦める日が続いた。アポイントをキャ

ンセルするストレス。買い物すら行くことができない不自由さ。帰国日が刻々と迫ってくることへの焦り。自力では抜け出せない穴に放り込まれた気分だった。

そのような状況のなか

で救いとなったのは、事情を知ったポリアモリストの友人が、近況を話してくれたり、ミーティング会場まで車で送ってくれたりしたことだった。あるとき、友人はわたしにカウンセリングを受けることを勧め、「見えない不安を可視化したり、自分を俯瞰する（ふくかん）ようなワークをする」とアドバイスをくれた。これは彼女のジェラシーとの向き合い方であるという。



聞き取り調査では語り手に相関図を書いてもらうことが多い。複数のパートナーが線で結びついている

カウンセリングには行かなかったが、友人が「よく効く」と教えてくれた「自分に手紙を書く」というワークをやってみた。どのようなときに不安を感じるのか、自分が感じているネガティブな感情は具体的にどのようなものなのか、それとどうつきあったらよいと思うのか、と手紙のなかで自分に尋ねる。はじめは半信半疑だったが、思っていたより効果があり、かすかに心が軽くなった。

ジェラシーという課題

ポリアモリーにおいてジェラシーは大きな課題のひとつである。指南書にはジェラシー対策

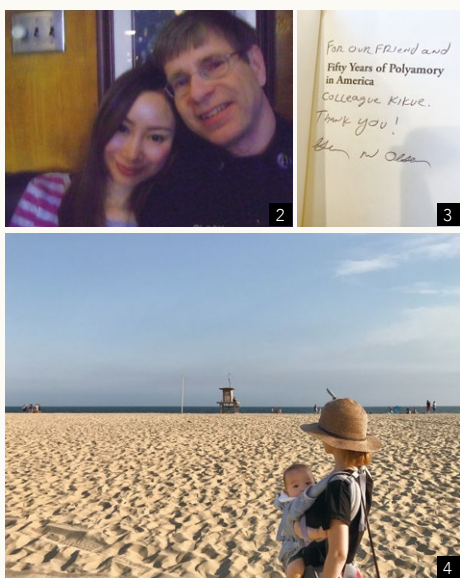


や対処法を示しているものが多い。そこには心理学、人類学、霊長類学、タंत्रトラ、スピリチュアルなど、さまざまな領域の知が集結している。状況を少しでも変えたくて必死だったわたしは、片っ端からワークやエクササイズに取り組んだ。特に気に入ったのは、自分の望みを確認し、現状に対する感謝の気持ちを声

に出すワークである。帰国の二週間前には、スーパーなどの慣れた近場までは一人で運転できるようになっていた。真面目に取り組んでいたジェラシー対策が功を奏したのかもしれない。しかし、正直に告白すると、今でもひとりで運転するのは怖く、トラウマや不安を完全に克服できているわけではない。ワークを教えてくれた友人もいまだにジェラシー問題とともに生きているようだ。想定外の交通事故は思いがけないかたちでわたしを、ポリアモリーの叡智や彼らとジェラシーの関係を探るヒントへと結び付けたのである。



調査で聞き取った語りをベースに「ポリアモリーの人生ゲーム」を友人と制作。筆者は企画・制作・監修を担当した（東京都とアーツカウンシル東京が主催する「長島確のつくりかた研究所（2012-15）」成果物）



- 数多くの指南書が出版されている。なかでも手前2冊（紫、黒）は「ポリアモリーのバイブル」とよばれるほど人気のある書籍
- 調査に協力してくれた大切な友人（右）。ランチ時に職場で近況をきいていたときに撮影した一枚（ロサンゼルス、2012年）
- その友人は2022年にポリアモリーに関する書籍を出版
- 子どもが生まれてからは一緒にフィールドに行くことが多い。現在はポリファミリーの調査をおこなっている（ロサンゼルス、2017年）

間をつくりだすイタルフード

かみもとしゅうじ
神本 秀爾

久留米大学 教授

ジャマイカは暑い。もちろん日本の夏の方が暑い時期もあるが、ジャマイカでの日々はとにかく暑いと感じることが多い。理由は簡単で、調査のために日中でも出歩く必要があるためである。

ジャマイカに行ったとき生活の拠点にするのは首都キングストンのにぎやかなエリアであることが多い。こういった場所にはバーガーキングやKFCのようなグローバルなチェーン店や、イタリアンや中華のような各国料理の店もある。もちろん、ジャマイカ料理の店もある。だが、調査の合間などに寄るのは地元の人でにぎわう弁当(ボックスランチ)屋であることが多い。

ジャマイカの弁当屋のメイン食材には^{やぎ}山羊や豚や魚も使われるが、メニュー表の上の方にフライドチキンがあることが多い。メインのおかずはふつう、ライスアンドピースとよばれる、日本の赤飯に似た豆ごはんと一緒に食べる。ココナッツミルクなども使われていて味が濃いので、たくさん汗をかいた体に必要なエネルギーを取り込んでいる気分にもなれる。

しかし、心のエネルギーのために欲してしまうのがイタルフードの弁当である。イタルフードとは、ラスタファリアンとよばれる菜食重視の生活をしている宗教実践者たちの食事の名称である。長くラスタファリアンのところに通っていたことも関係しているが、日常の時間を中断させてくれる食事であるように感じている。

正直なところ、フライドチキンほどの味のイン

パクトはない。その代わりに、それぞれの野菜や穀物の来歴を想像して、自分も自然の循環の一部だということを実感できるのがたまらない。弁当屋に来るまでの道が混んでいたことや待たされたこと、あと残り何日間で調査の成果を出したいと考えていることなども忘れて、ただ自分と食材がその場で向き合っているような気分になる。そして、何かしらのフレッシュジュースを飲んで体を冷まして、また誰かにインタビューをしたりするために陽射しが強く暑い外に出かけていく。



弁当屋の作業台の片隅で。切りたての野菜がのることも多い
(ジャマイカ キングストン、2023年)



ひとりひとりのご参加が、 国立民族学博物館と友の会の活動を支えています。

国立民族学博物館友の会は、国立民族学博物館(みんぱく)の活動を支援し、積極的に活用するためにつくられました。21世紀は地球上のいたるところで、おたがいを認めながら、ともに生きてゆく考え方が求められています。世界の暮らしの多様性にふれ、それを解き明かす文化人類学・民族学の知見がますます重要になっています。みなさまのご支援とご参加をお待ちしております。

訪れるたびに発見がある

博物館を 何度でも楽しめる

年間何度でも本館展示と特別展をお楽しみいただけます(一部の特別展は割引料金適用)。館内で開催する催しへの参加もスムーズ。研究公演など一部の催しの参加が会員優遇枠もあります。

人びとの営みの真髄にふれる

『季刊民族学』 年4回発行

友の会の機関誌。世界の諸民族の社会や文化に関する正確な情報を平易かつ読み応えのある文章、豊富なカラー写真で紹介する、あなたの知的欲求にこたえる家庭学術雑誌です。



最新の情報をいち早くお届け

『月刊みんぱく』 年12回発行

『月刊みんぱく』はみんぱくの広報誌です。展示や催しの情報のほか、資料の解説や現地の様子、調査の動向を親しみやすいエッセイやコラムで紹介しています。



お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

国立民族学博物館友の会

公益財団法人 千里文化財団

電話 06-6877-8893(平日9:00~17:00)

入会方法は友の会ホームページに載せております。



国立民族学博物館友の会機関誌『季刊民族学』のご案内

最新号

『季刊民族学』188号

ISBN 978-4-915606-91-5 C0439

【特集】

シン・シャーマニズム論 ——カミとつながる技術

異世界を旅し、精霊や野生動物と交流することで、異なる姿や新たな能力を獲得した人びと、シャーマン。シャーマンがカミとつながるための技術(技法)の秘密に迫る。

島村 一平/坂井 弘紀/ダーヴィッド・ショム
ファイ・カラ/福 寛美/松平 勇二/山森 靖人
河西 瑛里子/ターニヤ・M・ラーマン

連載 フィールドワーカーの布語り、モノがたり 第6回

エスニシティを象る装い

——中国雲南省のモン衣装の移り変わり

宮脇 千絵

【ほか】

『季刊民族学』187号

ISBN 978-4-915606-89-2

【特集】

境界をゆきかう 日系人

国や文化、民族の境界に生き、境界をゆきかう日系人の多様な姿をとおり、異文化共生社会のあり方を考える。

中牧 弘允/小嶋 茂/根川 幸男
山本 晃輔/ジュニオール・マエダ
アンジェロ・イシ/城田 愛
河上 幸子/早稲田 みな子/佃 陽子
伊藤 雅俊/菅瀬 晶子 【ほか】

186号 ISBN 978-4-915606-88-5

【特集】 争いの終わらせ方——紛争解決と共生の人類学

185号 ISBN 978-4-915606-87-8

【特集】 ビーズ大陸 アフリカ

184号 ISBN 978-4-915606-86-1

【特集】 カラダの人類学——身体という秘境を旅する



表紙: モンゴルのラッパ、メヘ・ザクハイ

写真: O. Tugsbiling

A4判・104頁 2024年4月30日刊行

講読方法

国立民族学博物館友の会の維持会員、正会員のみなさまには、年間4冊お届けしております。

おためし購入は一般価格:2,750円(税込)、会員価格:2,200円(税込)。郵送の場合は別途発送手数料をご負担ください(会員は不要)。

『季刊民族学』は国立民族学博物館ミュージアム・ショップで販売しております。

お問い合わせ

国立民族学博物館ミュージアム・ショップ

オンラインショップ「World Wide Bazaar」

<https://www.senri-f.or.jp/shop/>

E-mail shop@senri-f.or.jp



オンラインショップ

国立民族学博物館友の会(公益財団法人千里文化財団)

電話 06-6877-8893(平日9:00~17:00)

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/

E-mail minpakutomo@senri-f.or.jp



友の会